

深掘り

炭鉄港と
小樽

幌内炭鉱の石炭は、鉄道で小樽に運ばれ、港から積み出されて日本の近代化のエネルギー源となりましたが、暖房をはじめさまざまな場面で市民生活を支えていました。市内には石炭販売会社が多数ありましたが、その一つが今もJRR小樽駅そばに本社を構える「樽石」です。

樽石は、現在の代表取締役上参郷光祐氏の祖父・騰氏が昭和22年（1947年）に創業した北海道物産に始まります。戦後、石炭販売は配炭公団に統合

20 石炭販売会社

暖房源供給 生活支える



されましたが、騰氏は自由販売が必要だと考えていました。昭和24年には小樽石炭に改称。北海道炭礦汽船の指定を受け、本格的に石炭販売を始めます。明治以来、住宅や事業所の暖房は炭かまきが使われてきました。炭かまきが使われてきました。炭かまきが使われてきました。炭かまきが使われてきました。

その後、石油へのエネルギー

転換が進み、多くの石炭販売店が淘汰されていきましたが、時代の変化を察知した騰氏は小樽石油を設立。昭和45年には樽石に改称し、燃料販売を主体とする総合商社となりました。石炭の積み出し港として栄え、全国有数の観光地に生まれ変わった小樽の歴史とともに、街の発展を支えた企業も進化しつつ歩みが続いています。

（高野宏康・小樽商科大学学術研究員）

◇ 次回は2月26日の予定です。

樽石の前身「小樽石炭」の社屋。昭和24年から現在地（小樽市稲穂）で石炭販売を手掛けた（樽石提供）